

# 研究成果

## 1. ホータン近代史

①、人民公社や文化大革命の時代、女も人民服を着て、男と同じことをした。また、奇妙なことがあった、鉄を作る技術がないのに、鉄を作れと言われた。（大躍進の時代、毛沢東は中国の全人民に対して鉄を作れと命令した、これが工業発展の基礎になると信じていたのである。ノルマが課せられ、人々は農作業を放って、なべや釜などで鉄を作ることに熱中した、これが生産力の低下につながった。）いま、女は畑仕事をしない、家にいて、家事などをやる。暇だったら家畜の世話をするぐらい、人民公社の時代は、肥料など袋を背負って女も働いた、家に帰っても食事をする調理器、食器がない、この家もあばら家だった。

自分は6つの政府を経験した。

1、キタイ（清）の時代。ホータンに城があって、70人ぐらいの漢族の軍隊がいた。軍馬の餌に使うわらをヤッラ（税金）として、1ムーにつき10キロとられた。自分はバイ(地主)ではない。

2、イスラムの時代。1年半続いた、税金はないが、兵隊の義務があった、カルカッシからきて、エンギサール、カシュガルからのトンガンに負けた、彼らは兵隊と言うよりゲリラ、武器はナツメに木で作ったチュマックといって棍棒に釘を打ちつけたものであった。

3、トンガンの時代。銃を持っていた。マーホーサン、マーシュウイン、マージュウイン。マーコーサン（馬虎山）がホータンに来た、先の馬三兄弟はカシュガルに来た。

4、盛世才の時代。よくない、だから短い。今の政府が長く続いているのは、貧しい人に与える、喜捨をやっているからだ。いまでも税金が大変、牛1頭の肉で、110元、羊20元とられる。肉屋を96年している。

5、国民党の時代。

6、現政府。

モスクは月、木、金といく、毎日は頭が痛くなって無理、イスラムは政府

が変わってもずっと同じである。

②、カラカシュでマーマツトナズラットのイスラム運動があった。1932年だった。そのとき自分は15歳だったが、それを見に行ったら、だから今は84歳である。ラウラ郷で生れた。この運動の後、トンガンがきた、自分の兵隊になれとか、馬のえさをもってこいとか、言われた。そのあと盛世才の支配になった。トンガンよりよい。学校で少し、コーランを勉強した。国民党がその後きた。馬に乗れないくらいの15歳で結婚、9人の子供をもった。妻は5年前亡くなって、再婚した、長女が隣に住んでいる。（その孫が話を聞く場に同席）妻は実家に行っている。自分の家は代々バイだった、それも父までである。父は解放のとき批判された。300頭の家畜、280ムーの土地、裕福なくらしだった、オータクチ（小作）がいた、1年間50チャーレック（1チャーレックは10キロ）の穀物、服を無料で与える契約で雇う。1チャーレックは11元だから550元である。服装450元としたら1000元に相当する。マルチェというのは家畜担当、あわせて50人くらい雇った、羊が子を産んで10頭増えたら、その増えた分をマルチェと等分する。かれらも同じマハツラに住んでいた、バイも生活は質素だった、バイも農業する。土地などは解放のとき没収された、補償はない。しかし、2年間くらいでとりもどした、父は81歳でなくなった。じゅうたんとか、お金など調べられてとられた、人民公社のときは朝昼晩とナン1枚ずつでみんなと食堂で食べていた、腹は半分で空腹だった、それでも空腹だとはいえない。子供は樹の下の幼稚園に行き、そこに子供を世話する女性がいた。自分はバイの子供と言われ、休みがないし、差別された、結婚も難しかった。公社は共産党が廃止した、その後、土地の再配分で普通の人には1.5ムー、自分らは1.2ムーだった。父がバイのときは、30頭の羊、280ムーの土地、7頭の馬、18枚のじゅうたんがあった。馬は貧乏人が乗って、みんな死んでしまった、いまはない。文化大革命は大変だった。今はバイもなくなって、平等になってよくなった。マハツラは洪水など災害があるときはみんな出て助け合うが、それ以外は自分のことは自分です。9人の子供は近くに住んでいる。12年前から、体が弱くて農業もしていない。モスクでのナマーズは行く。わたしは12人兄弟の7人目、人民公社のときゼロになっ

たから、相続するものはない

③、111歳になる。兄弟2番目、石油会社に勤める子がこの家を作ってくれた、ポスカム油田である。トンガンの時代は兵隊になれと大変だった、殴られたが兵隊にならなかった、ホータンの支配者は馬虎山、トンガンは北新疆で清政府に負けてここに逃げてきた。3年間、支配した。学校には行っていないから読み書きはできない。農業だけをしてきた。国民党のときは税金が多い。解放軍が来たときはどうなるかと思ったが、あとでよくなった。郷の組織は戦後できた。国民党時代はユズベシ(100の頭)村長に相当する。その下に2人のベク、郷長に相当する。ベクは解放のとき死刑になった。いつも前後に10人ずつ引き連れて歩いていた、

あるとき母のところへ役人が税金を取りに来た。お金がないといったら、殴られた。25歳ぐらいのときだった。死刑になりそうになった。しばらく、棒で殴られた。3日目までは覚えているが、後は意識がない。でも、みんなは泥棒でもない、他人の奥さんと悪いことをしたわけでもないのにどうして死刑になるかと言ってくれた。男は怖がったが、女性が10人ぐらいで政府に抗議した。ホダーのおかげで生きている。ヤームルという裁判官があったが、ベクはそれにしらせないで自分で死刑を執行することもあった。イミンベクという名前だった。新政府によって死刑になってうれしかった、イスラム法によると、ナマーズしてモスクから出てばかりで、大切な時間に抗議したから、シャリーアで死刑といわれた。地主、バイという、ポームチックは共産党が広めた地主という言葉、よい意味ではない。ここにも2人のバイがいた、マートニヤズジキダック、トダホーンハーレット(建築家)、父から8モアの土地もらい、母の名義で登録した。子供が若いから土地を売るのを防ぐためにそうした。村回りの床屋もした。80年間である。

④、人民公社の時代。朝と夕食は共同、昼は自分の家です。1日女8~10, 男12~15の点数、10点が2角、給料日がある、大変だった。お金が不足すると家のものを売る、子どもが多いと村から援助、1958~79年まで続いた。昔は村に6人くらい地主(ママーラ)がいた。小作人(オータクチ)は畑をかりて、収穫の3分の1は自分のものになるが、生活はきつい。今でもこの村に地主の子はすんでいる、農業で成功している。人民公

社が終わったとき10ムーの配分、今は子どもに分けたので4ムー、曾孫まで47人、コルバンなどに集まる。

⑤、人民公社の時代、1日働いて利益になったのか損したのかわからない。今は1万～1万5千元が収入。大学の助教授よりいい。人民公社はいつも空腹だった、同じマハッラで共同食堂があった、第4小隊といわれた。30戸であった。今はこれが2つに分かれた。点数制、1日10点で3角くらいであった。女性が8～6点。食堂はみんな嫌いだから、人民公社が終わったら、すぐ壊した。中央政府や江沢民はいいことをいっているが、テレビ、新聞などと、村のレベルでは少し話が違う。農民は税金を5%位安くするといわれても、その通りにならない。自分の家は階級では貧農だった。村に地主1戸、富農2～3戸があった。今でも子どもはこの村にすんでいる。かれらは人民公社時代には不遇だったが、今では盛り返してよい生活をしている。文化大革命や人民公社のことをよく言う人は一人もいない。村を2分して互いに質問して、批判しあう。新疆のトップはワンインモウだった。その人に反対するか、賛同するかで分かれた。サイフディンはみんな好き。地主は頭がよい。本を読む、教育がある。一步先をいく。昔も地主との関係は悪くない。共同で子どもを育てる、敬老院（19人いる）は人民公社時代からある。農村では育児をする人は農作業をしない。市内では幼稚園がある。このマハッラではメッカにいった人はいない。文化大革命のとき、モスクは壊さなかった、周恩来が反対した。清、国民党の時代はよくなかったと父は言っていた。回民が市内に行くと軍隊になれと言っておどす。漢民族とは仲良くやっている。役場でもウイグルより派遣された漢族の幹部の方がおだやかである。人民公社のトップはワンモウジュンだった、かれは自分たちと一緒に働いて、尊敬された。

⑥、ウルムチ生まれ、奥さんがホータン生まれである。連れの女性はヨルダシ。自分は社会言語学が専門である。ウルムチがユーホア、中華民国の時代の1924年生まれ、6歳からのことなら大体覚えている。台湾、チベット以外は会議などで全部行った。

ウルムチの内城は漢人、外城はウイグル人、回族、南門から二道橋までは商人、タタール、スイス人など、多様な外国人が住んでいた。かれらはカシ

ユガルを通過して来た。自分はウルムチのウイグル人町で生れた。おじいさんは1868年にカシュガルで、清の漢人との戦争をした。1種の宗教戦争であった。おじいさんは偉い人だが、会ったことはない。生れたとき既に亡くなっていた。お父さんが8歳のときなくなった。軍をつれてトルファンに行った、祖父は奥さんとトルファンで結婚した。清の時代、平民は丸坊主、偉い人は辮髪だった。おばあさんは自分が13歳のときなくなった、祖父はいい人だったといっていた。カシュガルにあった祖父の墓は左宗棠が破壊した。政府が許可しないと再建できない。

22歳のときケリア県の県長になった。1年間、国民党につかまってヤルカンド(司令部)とホータンの牢屋に入れられた。3区革命で自分が県長に任命されたから、つかまった。共産党と国民党の協力関係が壊れたからであろう。ボルハンが助けてくれた。食事は家族が持ってきてくれる。結婚してすぐ牢屋であった。県長のとき結婚した。妻はケリア出身で、学校の先生が紹介した。その時代には自由恋愛はない。奥さんは14歳だった。女性は12歳からできる。結婚の条件は奥さんが14歳になって、文字が書けること、家柄は中等、貧乏でも自分より金持ちでもだめであった。結婚式の2日前、10キロ離れたところで、2つのグループが水争いをしていた、悪いほうを捕まえて牢屋に入れた。その処理で結婚式を忘れそうになった。

## 2. 教育

①、父は箱を作っていた、後は商売などでロシアに行った。教育が必要であると考え、私は6歳から、イスラム学校で、アラビア語を勉強した。1930年ごろ、盛世才のあと、ヨーロッパ式の学校が始まった。サマン教からアホンの言葉は来た。アラビアの文字、数学、経典を勉強。いまは歴史を研究している。10冊くらい出版した。ウイグル人がバイカル湖からこの地に来たという考え方はロシア人のベルニシタンの説で、間違いもある。ウイグル人はオルホンに住んでいた。今のモンゴルで、東はコリア、西はホラズムまで広がる。トルファンとホータンのウイグル人は違う。ウイグルの人種はむずかしい。湖南省のウイグルは300年たっているから違う、でも年より

はウイグル語を話す、ゆりかごもある、ブシュク、釜、塩のつぼも似ている。手を洗ったあとタオルを使わない。よごれるから。座り方は日本と同じ、男は家ではえらい。ウイグルでも近代は女性の地位が高い。

6年間イスラム学校で経典を勉強。ナワイイという人にウイグルの歌、ペルシャ語、アラビア語の文法、イスラムの法律、リヤーズヤック(数学)、などを教えてもらった。金曜日は休み。基本的に学費はいらぬが、服、食物を木曜に持って行く、冬は石炭を持って行く。昼食は家に帰る。1930年代、ウルムチに5つの学校があった。貧しい人は学費はいらぬ。卒業してからは新しい学校にいった。科学的知識を教えた。イスタンブール、カザンで勉強してきたウイグル人が先生で、6歳からいける。わたしは12歳から、イスラム学校を卒業してから行った。1930年、ウルムチ第1中学校に入学。今の社会から見ると、新しい学校がよい、でもイスラムで古典を学んでよかった、数学がおもしろかった。盛世才の戦争のときは学校も休み。人も出ない。馬仲英の回族とウイグルが一緒にならないよう、城の外に出ることを禁止、ロシアから紅軍が来て助けた。父が病気になって、教師になった。訓練学校で教師になるための勉強をして、ウルムチの第6小中学校の教師になった。中央訓練団、教育研究訓練学校を卒業。いまの師範よりレベルは高い。

②、86歳、11人兄弟の8番目。今残っているのはこの兄弟2人である。国民党の時代、先生だった。トサラのカラマツト小学校で、数学などいろいろ教えた。漢語も1週間に1時間教えた。ホータン師範学校卒、3箇所転勤。学校にクラスは2つ、70人、学費は無料、学校に来ないと、石を持たせて立たせる罰があった。学校は国民党の旗を毎日揚げ、スローガンの三民主義を教える。この旗がだんだんと低くなって、ある日なくなった、それが共産党が来るときだった。そのあと、学校がきれいになった。国民党にも入ってなく、協力もしていないのに、後で国民党の手先だと言われ批判された。あとでそれは撤回され、いまでは年金をもらっている。11年間の国民党時代から、教科内容の半分は変わった、数学は変化ないが、歴史、国語が変わった、数学の勉強はよい、歴史は頭が痛くなる。生徒は変わらない、体罰や落第は国民党のときはあったが、いまはない。孫とひ孫あわせて、60人くらいいる。今の文化の影響で子供の考え方と自分は違う、アダップカイダ(し

つけ)では、自由にさせるのはよくない、きびしいしつけがよい。女性は言うことがよく変わる。女性と男性はちがう、女性は話を聞いてやわらかい、母とおばあさんがしつける、生活の仕方など。結婚した後、くわしくしつける。男は父がしつける、結婚相手は親が決める、自分で探してもよい、親の同意が必要、結婚費用は親が出すからである。

③、44歳、小学校の校長。去年9月に赴任、数学が専門、生徒数640人、先生19人だが、あと6人ほしい。先生はトサラ、ブザクからきている、19歳から55歳、女55歳、男60歳で定年である。本科卒1人、18人は中等師範学校卒、小学生は小学校5年卒と6年卒を選択、先生を雇う予算がない。法的には校長月給1500円で郷長1000元より高い、しかし豊作だと郷長はボーナスとして国から奨励金がでる。教科書は自分で買う、家族の収入が低いともらえる。民族団結は教科書にないが道德のときに教える、お互いに習慣を尊重する。漢族との違い、旧正月などここの漢族は食事のとき、豚肉は家で食べる、ウイグル人がもし食事をするときには豚肉を食べた食器は使用しない。中国語は必要である。2人の漢語の先生、3年生から週8時間、10クラスの授業で大変である。周りに漢族もいないから話すこともない。ウイグルティリは10時間、歴史、文法、音楽で教える。ウイグル人で有名な人はゾルドンサー、サイフディン、マフマッドカシュガリ、ユースブアルハジなど。秋は種まきのとき出席率は落ちる、97%になる。前は4人にひとつの机だったが、今は2人に1つの机、実験道具や教科書も十分、国民党のときから13の小学校がこの郷にはある。

生徒の親の99%は農業、生徒の将来は大学へは5%、農業は60%、でも農業は貧乏になると思っている、あとは大工、タクシー、果樹園など商売をする。

④、24才、先生になって4年目、農業学校から成人学院で大学レベルの証明書をもらう。父も先生だった。弟が学校だからお金が必要、結婚は我慢している。兄だから下の面倒を見る。美術・工芸を担当、トサラ郷生れ、画家としてはアーズアーマト、アブルケル・ナスルディンが好き。

⑤、22才、総合科学を担当、ホータン市内に住む、ブザク生まれ、パソコンを自宅に持っている。国際情勢を生徒に話すこともある。パレスチナ情

勢など。アラファトを支持する。小学校の同級生は100人くらい、2人大学に行き、あとはタクシー、大工、今でも3～4人集まる、女子は90%結婚している。同級生とは結婚しない、2歳くらい年下と結婚したい。年上との結婚はめったにない。いまは英語を勉強しているから結婚しない。

⑥、ラウラ郷中心小学。450人、体操の時間だった。小学生は減っている、子供は少ない。中学には全員進学。高校へは20%進学。自分は体育の先生、ホータン師範学校卒である。

⑦、ホータンの小学校、漢語の先生（38）、生徒数2400人、20年勤務、民考漢である、師範学校でウイグル語の勉強した、幼稚園、小学校、中学校と漢語学校に行った。父は小学校の教師、漢語はわからない。自分は学校で学んだことも父にウイグル語で説明できなかった。小さい頃、ウイグル語はローマ字だったがアラブ文字に変わった。ローマ字がよい。サイフディンが70年にローマ字を考えた。ホータン人の主席イスマイル・アメットの時、古い年上の人を読めないということで、人民大会で投票し、元に戻った。

漢語教育で困っている点は、画数、読み方、語順など文法が違うから、教えるのが困難である。漢人とは80%の文化が違う、習慣やしつけが違う。トウクズ・ハン・ティ（仕事の意味が分からなくてよけいなことをする）になる。中国語は外国語ではなく中国国民だから覚える必要がある、中国語を覚えてから英語をしたらよい、でも感じ方考え方はウイグル語でする、びっくりしたらホダーという。

⑧、中学生。政治の授業は嫌い、漢族の子とは遊ばない、漢族はバスケットが好き、自分たちはサッカーが好き。

⑨、ホータン市内生まれ、大学生（19）　ウイグルの若者が外国の習慣の悪い影響を受けて、伝統的な習慣がなくなっていく。酒ばかり飲む。伝統的な習慣とは音楽、ドタールをひく。宿舎でその音が聞こえるとみんな嫌がる。50人くらいのクラスでだれかムカムのテープを聞かせたら、これはなんですかといわれた。世界に誇るウイグルの伝統音楽が後世に伝わらない。他のウイグル文化はマフムド・カシュガリ、モスクは1歳のときから、コルバンなどの祭り（heyт）と、親戚の葬式のときにいくだけ。イスラムの信仰に



については、イスラムについてはよくわからない、コーランについても学生だから知らない、コーランも読めない、ナマーズもしない。だからといってイスラムを信じていないわけではない。親はイスラムについて何も教えてくれない。学校教育にイスラムは持ち込めない、モスクの掲示に18歳以下は入場を禁止と書いてある。アホンが自分の家で教えることも禁止されている。生きていくうえでお金も重要だが、それ以上に知識も必要である、早くから宗教、イスラムばかり教えられると、生きていくために必要な知識がおろそかになる。物事の判断がわかるような年になって、イスラムを学ばよ。メッカには親が行きたいといっているのだから、連れて行きたいが、そのようなお金があればヨーロッパに行けばよい。ウイグルの文化はイスラムの文化の影響を受けているが、イスラム文化ではない、シャーマニズムもある。マシュラップは父が楽団の人を連れて、市内から離れたマザールでやっていた。サッカーが好き、中田はしっている。日本人は豊かな生活をしている。

⑩、ブザク郷生まれ、大学生（19）中国語がわからないまま大学に入る。先生のレベルが低い、中国語を話せない、時間の無駄、いい先生でもレベルは2級。中学卒業後はほとんど農業、中国語は必要ない。ブザク郷にいたときも、共産党の書記は中国人だが、ウイグル語がわかる。中国語を話したことがない。バザールで野菜を売っている中国人がいるが、私たちが中国語で話しても、ウイグル語で答える。中国語で話す機会がない。中国人だけの村も知っている。自分がいいことをしたら漢人は忘れない、しかし、生活習慣が違う。漢人はどんな環境でも努力する、ウイグル人もそれは学ぶべきだ。親がイスラムの作法について教えた。マシュラップは小さいころはあって、火を燃やし、食事や歌、踊り、チャクチャクを言い合い、楽しく過ごした。ホータンには少ない。

⑪、カシュガル生まれ、大学生（18）、警官、軍人になりたい。兄弟は2人、弟。男女差別、田舎では女は中学や高校に行かなくてよいといわれる。嫁にやる、あげる（ビルド）という表現も残っている。父が娘をあげる。女性が自分で得たお金でも、靴下を買うときには主人の同意がいる。17、18で早く結婚した場合、妻をたたく主人が多い。しつけはおじいさん。カシュガルのマルキット県で有名なドーランマシュラップ、カシュガルは多い。

⑫、アクス生まれ、大学生（19）父は自営。夏は携帯を売り、冬はバザール家畜を売る。外資会社に勤めたい。専門は経営管理である。英語が好き、それを勉強している、結婚は何才でもよい、就職の希望が実現したあと結婚する。アクスには戻らない。家族もウルムチにいろという。学校教育のいい所と悪い所は？中国語のレベルが低い、いいところは母語がよくわかる。女子の大学進学に反対する人は田舎では多い。ほとんど中学で終わる。アクス市内では進学にとやかく言う人はいない。大学の授業料が高くて困る。しつけは母、父双方ともする。

⑬、大学教師。授業料が2倍になった4000元、ホータンの経済は伸びない、大学は研究する金はない、教育するだけである。

### 3. 家族と結婚

① 今、61歳、このマハッラは30世帯ある。妻は55歳である。再婚で、子どもは男6人、女4人、あと1人は前の妻との間。子は5人が独立、すべてピアルマ郷にいる、長男は31才だが家建て、羊6頭、ロバ3頭と食器をやった。マハッラに70人くらい親戚がいる。23ムーの畑、羊25頭を持っている。

②、自分は49歳、妻は46歳、子は男5人、女2人、長男は22才で結婚、近くのマハッラにすんでいる。末子相続である。人の移動は少ない、（3男がお茶を出してくれる）20才で園芸の専門学校に行っている、3年ぐらいしたら結婚つもり、結婚費用は親が出すから、親が反対したら結婚はできない。昔は250元、今は15000元かかる。漢人との結婚はない。

③、このマハッラは15世帯あり、そのうち14世帯親戚（いとこや孫など）である。自分は58歳で、妻は50歳である。21才で結婚。その間に長男が生まれ、長男は結婚して同じマハッラに住む。長女は、結婚して同じ村に住む。次女は、結婚して同じブザク郷に住む。次男は結婚して同じマハッラにいる。3男、4男はまだ家にいる。全部で6人の子どもを持っている。

④、この村は1100人位でそれが6のマハッラに分かれる。ここは第3のマハッラで28所帯。長老といわれている。年は80才、奥さんは60才。

今は第4マハッラの実家にいて不在である。長男（65）、長女（55）（同じ郷のバースイ村に婚出）、次男（42）、長男と次男は近くに住み、父に客（私）があるということでかけつけてきた。長男の奥さんはトサラ郷から嫁いできた、この村の親戚の紹介で。その間に8人の子どもがいる。この中の一人（孫）がかまどでお湯を沸かし、茶を出してくれる。

生まれはここ。解放後、保安隊長、農場の長などの仕事をした。第1回の結婚をしたが、ユルンカシュの荒地の開拓で出かけ、そのときに愛人ができた。2回の結婚では子が1人、3回目は55才の時、トサラ郷からもらい相手は35才で子は2人、4回目が現在。お金があれば一夫多妻もよい。

親戚はトッカシヨクラシュ、イトコまでを含む、自分の5人兄弟の子ども、孫で66人いる。コルバン祭り、葬式、結婚式などに集まる。マタイトコは結婚する。

⑤、私は50才、妻は38才（妻が13才のとき結婚）、長男（22）は1年前結婚、ブザク郷にいる。しんせきの紹介で相手を見つけた。次男（20）、長女（16）は同じ村のアクアイマハッラに婚出、次女（14）は1週間前に結婚、あと4人の子どもがいる。嫁の条件は、顔つき、道德、技術、読み書き、中卒など。婿の条件、学校に行っている、道德的に酒とたばこはだめ、礼儀（アフラック）、隣人と仲良く、金儲けがうまいことなど。14才くらいで結婚してもよい。長男の結婚の時、家を与えたが、土地はやらない。娘には財産はすぐにはやらない、2～3年離婚しないかどうか様子を見る。産児制限で罰金を払った（500元）こともある、今はもっと高くなっている。妻が避妊の手術を受けている、中絶もした。子どもは働いてくれるから多い方がよい、絨毯づくりなどができる。

⑥、私は41才、妻は35才で、子どもは女5人、長女はホータンで洋裁の勉強している。子どもに対する義務は学校にやること、娘ばかりだが跡継ぎは心配していない。孫に期待する。結婚は同じ絨毯づくりで半年つきあって自分で決めた。78年6月16日が結婚記念日。奥さんは13才で結婚、今から考えると早すぎる。1週間に1回は実家に帰る。自分たちで家は建てた。出産はユルンカシュの病院でした。40日目に名付けの祝いをした、同じマハッラの人と宴会。長女の名前は自分の父母が決めた。誕生日祝いはし

ない。

⑦、私は67才、夫は87年に63才で亡くなる。子は男8人、女5人いる。10人は結婚した。下から5人のこどもと同居している。これは娘(25)で未婚、離婚した娘もいる、いまも綿花とりにでかけている。性格が合わなくて、けんかが多いと離婚する。奥さんが子を引き取ることが多い。衣服を持って帰るだけで財産はない。親戚は100人、兄弟2人はホータン市内、他は同じ郷にいる。毎週土日は集まっている。わたしは13才で結婚した。長女は51才になっている、末子は19才。ブシュクを兄弟が揺らして育てる。

⑧、ラウラ郷。104歳、子供は女2人、男2人、15歳で同じ歳の奥さんと結婚。その後、4回くらい結婚した、今は一人。12歳くらいの女の孫に世話をしてもらっている。夜の食事だけの世話で、あとは外に食べに行く。昔も今も貧しい、キタイ(清)の政府は税金が重い、作物の現物で納める、6割—7割とられる。トンガンは悪い、大きな刀で人を殺す。盛世才もトンガンと同じだった。汚職が多い。イスラム学校に半年行った。中国語は全然話せない。

⑨、男は外でお金を稼いでくる、女は内で家庭のことをする、子を育てる、糸づくり、絨毯、服、食事、農作業の助けなど。座る席は父、客が優先する。イスラムの代表として去年イスラム教七次全国大会に出たことがある。夫がホージャの家系でメッカにも行ったことがある。女性は今も昔も変わっていない。母の役割、教育、清潔、食事、しつけ—他人とけんかしない、盗まない。末子は小学校の先生、この村の体育の見習い教師をしている。

⑩、ハネレック郷。離婚、結婚はマハッラの偉い人に頼む。孫が子より大事、自分の親より子がなくなったら大変である。末子が親のことなどよく見える。息子より娘が1週間に1回はくる。今は女子の結婚年齢は農村では20歳、市内は24歳になった。ケルズは自分の義務、喜捨などイスラムの義務であり、父や、子や、村などに対して、したほうがよいがしなければならないというのではない。ペルズは絶対しないといけない、宗教的な義務、断食、巡礼、年長者にあいさつするなど。死んだあともそれをしたかどうか神が調べる。スンナットは髪をとかず、身をきれいにする、条件次第でしたほ

うがよい。毎日、風呂に入ることもそれになる。妻は子ができないからといって、妻の妹の子を養子にして、今27歳だが、話をよく聞かない、養子はだめ。1人産むのであれば、男がよい、結婚したら増えるから。娘は結婚したら、いなくなる。女性の親戚は食物を持ってくるのは、本当です。遠い親戚より近くの他人も本当のこと。

今106歳になる。生まれもここである。15歳にまだならないときに、父から結婚させられたが、夫婦生活の意味もわからなかったので、別れて、36歳までぶらぶらしていた。いままで4回結婚した。2回目に結婚した妻の子が今いる、妻とは死別、3回目は性格が合わなかったから1年で離婚、現在は4回目の妻といる。（話している途中、別のマハッラの男が相談にきた、このマハッラの人に16袋、えさとしてわらをやったのに、お金をもらえない。お金がないといったので、薪を持って帰った。）

離婚の理由、わたしはお客さんが好きなのに、客がきても、お茶も、座布団もださず、何度いっても聞かなかった。男は客の前で面子がないといけない、「男を良くも悪くもするのは女、エル ナエルクルガンモ ホトン、エル ナヤクルガンモ ホトン」。エル（夫、男）、ホトン（妻）。このような人はシッチキジルー腹の中が赤い、いつも血が出るみたい、嫉妬深い、人が来ても何も出さない、つきあいがよくない、自分勝手、人を助ける気がない。その反対の言葉、コンガウチュック、気持ちが白い、人と仲良く、手を差し伸べる。クグルカラ、気持ちが黒い、自分やるべき事をしない。キジルバーチャック、赤い足、ロシア人、共産主義、このせいでバイが貧乏人になった。

自分は長男で父が早く、孫を見たいといったから、結婚を早くした。私の子供は自分が良い相手を探したから、まだ離婚していない。相手を探すのは親の義務、メッカには今の夫婦でいった、子供たちも義理の母だけ行ったほうが良いと言った、貧乏人と結婚すると、かれらはなまけものだから、それに染まる。3番目がそうだった。今の妻のおじいさんは羊をたくさん持っている、それを買って利益を出した、うしろだてがないと成功しない。35年前今の妻と結婚した、父もいないから自分で探した、妻22歳だった、2回目の結婚だった。申し込みは自分で直接することはない、父がいないので

マハッラの年長者にってもらう、それは形式的なもので、結婚は互いに承知していた、

⑪、100才とき、再婚、離婚の理由は、結婚相手が悪賢い、食事ができない、自分の子供と仲良くできない（子供に聞かせる話ではないと、そばで話を聞いていた子供を追い払う）女性がそばにいないと生きていく価値がない。掃除したりお茶を入れたりする人がいないと死んでしまう。孫がいても孫にできないこともある。奥さんは若い方がよいが相手が納得してくれない。20歳のとき18歳の奥さんと結婚して、12年前に死別、それから何回か結婚した。最初の奥さんが1番よかった。今の奥さんは近くの未亡人だった。奥さんと2人で住んでいる。かなり大きい家である。石油会社につとめている子が帰ってくると、使う部屋がある。2番目の子供がそばに住んでいる。今でも農業をやるが、すぐ子や孫がケトマンをもって助けに来る。近くのモスクなら一人で行ける。毎日行く。同世代のものは皆亡くなってしまった。

⑫、わたしは12人兄弟の7人目、人民公社のときゼロになったから、相続するものはない。子供に平等に相続する予定、奥さんは同じ郷のひと、遠いしんせき、3回結婚、1回目の結婚は病気、2回目は性格が違った、いまでも最初の結婚は父親が決める、家族に合えばよい、結婚は同じ郷、同じ村がよい、女は育児、家事、農業の補助をする。子育ての精神的なものは男がする。

⑬、ウイグル人の早婚について。いまでも15-16歳が多い。法律は18歳である。ウルムチでは大学卒業してからだが、農村は成熟が早いから早婚。農村は離婚も多い、町は少ない。アラビアの習慣で早い。相続はイスラム法では、女は男の半分。孫と孫を結婚させるイトコ結婚が多い、金持ちが財産分散を防ぐためである。末子相続は少なくなっている。長男と住んだが、いまは奥さんと二人だけ、ウルムチに2人の子どもがいて、毎日来ている。あとはタシケントと上海にいる。

子どもは自由恋愛である。友達の結婚式のとき知り合うことが多い。家族の経済力によって結婚式に招待する範囲はちがう、孫の時、昼は250人、夜は300人だった。1週間のあいだ、式に来なかった人が来る。費用は28000元だった。嫁方の知り合いがお金を持ってくる。200元から30

0元である。招待されたら、招待する、お返しの額もつりあいを考える。孫も月に2回、結婚式に行くそのたびに金がかかると苦情を言う。こんな派手な結婚式は昔にはなかった。タートルをまねた。むかしは布団、じゅうたん、などが贈り物だった。今は電気製品など、全部そろえる。今はアホンがアラ一の力で2人はいっしょになりましたとニカをして、政府からも結婚証明書が必要である。

息子の結婚では1000人よんだ。ホータンで1回、ウルムチで1回。人数はおおいが費用はかからなかった。会議室などを使った。ラグメンとポロだけの食事。外国の影響、金持ちが増えてきた。それで派手になった。面子があるから、借金しても式をする。

結婚前にニカトイ。お互いの両親に付き合っていることを知らせる、調べる、了解したら、付き合いが続く。男性の方から女性へ使者。女性のほうがokだったら、男性のほうはお茶やら物を持っていく、小さなお茶という。つぎにチョンチャイ。女性の家族に服を上げる、お返しもある、式の日を決める。式は婿と嫁方で会場は別々である。農村では女性が先、男性があとの日にする。披露宴などで、服はヨーロッパ式が増えた。披露宴の次の日、また披露宴はどうでしたかと招待する。結婚の費用は、男性が女性に援助するが、ハミ、コムルでは4,000～5000元ぐらい。昔、男性はどのくらい客が来るかを女性に聞いて、ポロ料理のため米、肉を与える。住むところは婿の親との同居が多いが、ウルムチではいまは別に住むことが多い。農村は労働力の問題で男のところに住む。両親の許可がないと結婚しない。お金がないから。「おいしくないたまねぎは皮が多い」ということわざの意味は、「友達が多すぎると結婚しない」。ウルムチでも結婚しない人が増えている、漢人が多い。できれば早く結婚したほうがよい。子どもも若いときに育てたほうが疲れにくい、子どもが親を手伝うことができる。女性は28～30歳で結婚がむずかしい。漢人はまだ大丈夫。ウイグルでは大卒だと遅れる傾向がある。ウイグルではいい娘は多いが、よい息子が少ない。再婚のとき、式はあまりしない。奥さんがいないと料理をするが、大体は台所に男は入らない、共稼ぎのときは両方とも家事をする。幼稚園はある。金婚式（チョカントイ）は子ども1～2人作ってする。

結婚式では花婿、花嫁それぞれ500人の客、50人を花婿側が選んで、花嫁を迎えにくる。それぞれ三〜四万元の費用がかかる。

⑭、86才。息子たちは同じマハッラに住む、親せきが紹介して知り合い結婚する事が多い。この息子の母親とは離婚して、母親を息子が面倒見ている。開拓で知り合った妻はブザクには行きたくないと言うので別れた。

同じマハッラは何代もさかのぼればトツカンヨクラシュ（親戚、イトコマ）であるが、近い親戚は多くない。国民党の時代、少し自由だったが食べ物が無い。トンガンの時代、若者は兵隊にかり出された。労働模範でウルムチに行った、孫、子との行き来はある、夜はあぶないから、孫が来る。氷砂糖はウルムチで製造、コルラでとれる甘藷から製造されている。土地は兄弟別に相続する。ブザク郷から月200元の年金をもらっている、開拓の仕事をしてきたから。

食事では羊肉は好き、内臓も好き。好き嫌いは言わない、ポロも好き、ナンが中心である。子供や孫は近くに住んでいる。マハッラの人には結婚式、葬式に行く、よばれたら必ず行く。行政は関係ない。年齢が上で尊敬される人が慣例的にマハッラの長（アックサカル）になる。けんかしないで仲良く暮らせるようにする。結婚の相談もする。ジャマアアトはみんなという意味。働き過ぎない、食事を十分に、女性と暮らす。この3点が長生きの秘訣である。男が料理することはない。

（血縁関係ウイグル語：1、夫婦家族—カンダズ・トグハン。2、オジ、オバ、イトコ、継父母、継子—エッキン・トグハン。3、拡大家族—エイラク・トグハン。4、姻戚—クダ・トグハン）

## 4. 子ども

①、昔は生地を持っていくこともあった。今はどんなに安くても50元いる。いろいろな儀式が多い。ひ孫のトイが多い。生れて7日にアットイ。12日にブシュクトイ、そのとき、ゆりかごにはじめて寝かせる。かごの下からインギママといって、食べ物を上げる。40日、危ないときを無事にすごした。お湯を沸かして金、銀をつけて、塩をいれるそれで体を洗う。インギ



ママの意味はわからない。下を通すのは、よく寝るように、悪い夢を見ないように、トイに来た子どもを喜ばせる。おばあちゃんが寝かせる、乳をよく飲むように、インギママとって。9ヶ月目に、おなじことをやる。健康に過ごしましたとお祝いする。入学は、7歳。昔は家族の経済力によって、生地、ナンなどを持って学費代わりにお願いに行く。30年代、40年代のころである。アホンのところに持っていく。スンナットイは6歳から8歳。病院でも自分のうちでもする、スンナチはスンナトイをする人で、専門ではない、副業として床屋さんが多い、今は基本的に医者とする。代々受け継ぐ、医者の仕事としては副収入になる。病院で80～100元、家では150～200元かかる。

②、昨年、結婚式に参加させてもらったバフチ鎮の夫婦の家に行く、出産が近く、おなかが大きい。夫の名前はおじいさんの名前をもらったという。女の子であれば夫婦がつけてもよいが、男はおじいさんの名をもらう。夫婦も最初は男の子がよい。出産は病院だが、おばあさんの時代は6人の子供全部病院ではない、新婚旅行は忙しく時間がなかった。先生だから、出産休暇は3ヶ月、奥さんは学校の補助として働いている。

③、末子相続の理由。長男は自分の家族のことで忙しい、末子は長いあいだ親と一緒に住んでいる。早婚はイスラムと関係がある、女は9歳、男は12歳で結婚してよい。寿命が短い、戦争が多い、親が元気なときに結婚してほしい。いまは18歳からが多い。昔はイトコ婚がおおかった、遺伝的によくない、バイがしていた、自分たちの財産を拡散しないように。なぜ離婚が多いか、愛はお金で変えない、子供ができたら離婚しないことが多い。ナマーラムというのは、結婚の年齢から性的活動できない年齢まで、他の男に肌を見せることはしてはいけない、家族はよい。ベールをかぶるのもそう。社会が変わってもナマーラムは変わらない。文化大革命のときは女も中山服を着て、美の概念もだいぶ違った。ケリンダシーお腹が同じ子供、カンダシトッカー父、母、父母を同じくする子供。養子はいらない。カン一血、ダシー同じ、トッカー親戚、ナマーラム（結婚できる、適齢期）。

名付け、最初の子は父方の父が4つなどから選び、次の子は母方が選ぶ、

カシュガルでは祖父の名を取ることが多い、最近はパキスタンのTVなどで有名な人の名を取る人もいる。名を付けるのが親の義務責任（パリズ）、次に教育によって仕事を覚えさせる。次が結婚。悪いことをしたオスマンという人の名は付けない。マホメットの名を付けたら、口げんかできない。姻戚関係は年に4回訪問するだけ、あまり近づかない。コルバンの時、ローズ、結婚式、葬式、病気お見舞い、贈り物する。兄弟げんかは年上が怒られる。夫婦の財産は自分で買ってきたものは自分のもの。息子のバクティアルが進学などでお金が必要なときは母方、父方双方からお金が来る。おばあさんなども自分の土地や財産を持っている。

（親族関係ウイグル語：アホン、ヘネム、アッペンディム、ハネム、モアレム（ウルムチ）、アカ一年上、キズジャックー若い女性、ウスタムー同士、チョンボッパ（ひいおじいさん）、ウカ（弟）、スグル（妹）、孫、ナウラ（イトコ）、アンマ（おばさん）、タガ（おじさん）。多妻のとき、第1夫人ーホトン、2ートカル、3ーディゼル。）

④、59才。対ソ関係悪化して、60年代のとき軍事訓練同士で奥さんと知り合った。自分で決めた。奥さんはブザク郷生れ。小学校、中学レベルの農業専門学校卒、今は高校になっている。漢語は簡単な日常会話しかできない。イスラム学校はなかった。畑は15ムー。ぶどうが一番多い、その他トウモロコシ、小麦。農薬は使わない。化学肥料も使わない。木曜日の朝、父の墓参り（108才で没）、母は78才でなくなった。同じ墓に埋葬している。おじいさんも102才で亡くなる。その人の父も覚えている。コルバンの時夜亡くなった人のためにコーランを読む。スンナットイは家でした、バグチからする人を呼んできた。8～9才のとき、親戚に連絡して、お金をお祝いにもらう、その人は春に村を回ってくる、名称ハットネイチュという。漢民族も体によいからする。アシで縛り、木綿を焼いた灰をつけ、今日はしないとうそをつきながら、かみそりのようなもので切る。傷口に灰を付けて、木綿を巻く。1週間で直る。200個もの、卵をたくさん食べる、精がつく、玉子焼きでたべる。その印は1人前の男になり、体が清潔になり、ナマーズ

ができる、ことである。でも、そのあとは他人に性器を見せてはいけない。今でも病院でなく、伝統的にする人もいる、私の息子もした。20-30元払う。これをしないと人に笑われる。男も女も共同で風呂に入ることはない、裸をあまり見せない。この家は5万元、94年に建てた。この村では普通である。

スナットイのレストランで、父親の義務はと聞くと、こどもの名付け、スナットイ、結婚をすること。割礼はイスラムの宗教の意味が大きい。今は麻酔を使うがそれはよくないかもしれない。ミスは決してない。クタドビルク、などを書いたユースップ・オクトールなどのことがこの店には掲げている。

## 5. イスラム

①、ここも、3人に1人はワッハーブ派である、サウジアラビアの影響である。トンガン（回族）との関係は同じイスラムだが、近くも、遠くもない、通婚はない。互いの習慣を尊重する、ウズベク、カザフとは国境はない。モスクはナマーズするところだから、ここのモスクかれらがしてもかまわない、通婚もしてよい。先日もサウジアラビアからきてナマーズして帰った。モスク建設に政府はあまり金をださない。メッカにもいったが、貧富の差が激しい、乞食みたいな人が多い、金持ちが妻を多く持つから、貧乏な人はいつまでも結婚できない、経済的に豊かであろうが。

②、中国では一夫多妻は法律が許さない、お金がなくてぶらぶらしている女性もいるから、女性の数が今は多いから、2人ぐらいは許したほうが社会のためになるかもしれない。小さいころは多妻のひとがいた、今、多妻が許されれば、5、6人は自分のところにとんでくる。マハッラに、1人暮らしの女性がいたら、許せば結婚して、生活を助けることができる。て。解放後、法律が変わっても、奥さんたちがいやといわない限り、政府は多妻を黙認した、奥さんたちがいやといえは1人残って、後は別れた。ほとんどはそのまま残った、離婚しても、もらい手がないから。妻は若い方がよい、男も若くなる。お金があったらためておくより、女性のために使ったほうがよい。政

府が許さないのは、多妻を許したら、年取った奥さんを離婚するからだろう。でも自分はもし多妻だったら、離婚はしない、新しい妻に、年取った妻の仕事の手伝いや他の仕事をさせる。タラクはいまでは宗教的意味しかない。離婚は法律的な手続きが必要。離婚などではアホンなどはかかわらない、結婚もニカと結婚証明書が必要。

③、葬式ではまだ生きているときにアホンが水を飲ませる、それによって体がきれいになる、悪魔も水をやろうとするが、それを飲んだら汚くなる、その後、水が出てくる、モスクで葬式をすることを告げる、死んだら、頭から足まで3回きれいに洗う、みんなに集まること、墓の準備をするように言う。女性は女性が、男性は男性が洗う、ムハンマドの教えで女性は葬式に出席できない。遺体はモスクに運ばない、故人がいい人であったことを言い、金持ち、貧乏人の区別なくマハッラの人を中心に祈る。7日目にヤットナズル、重要な供養、みんなが遺族の家を集まり、悲しみを慰める、21日目にギムニナズル、遺族がみなに知らせ、お返しの食事をする。1年でイルナズル、遺族は1年間ひげをそりたくないが、周りは21日に故人ももう言っているから、ひげをそりなさいという、女性もお化粧してよいといわれる、しかし酒は1年間飲まない。1年で完全に日常に戻る。

断食の14日前、バラアート、みなで集まって食事をして、故人を思い出す、お盆のようなもの、毎週1回マザールに行ってお祈りする。ムハマッドが土葬だから、自分たちもそのようにする。墓地を制限するといっている政府をゆるさない、ナマーズする方向がメッカであれば門の方向はかまわない。

④、イマームを20年している、小さいときマザールの人からコーランを習う。96年に夫妻でメッカに行く、礼儀正しくて、よかった。ホータンでは人がけんかするが、メッカでは人間関係が丁寧で、文明的だった。たとえば、食事をするときウイグル人のように、余計な話をしないで、丁寧に食べる。外国では文化が進んでいる、年寄りも車を持っている。サウジアラビアにはパキスタン経由で行った。20台くらいのバスを連ねていった、パキスタンのイスラマバードでは大歓迎だった、3日間、ジアペエトというごちそうだった。そこからメッカまでは飛行機、パキスタンはイスラムと政府の関係が良い。ウイグルとパキスタン、サウジとの違いは、民族は違うが、宗派

でも99%が同じ、ナマーズのやりかたは違う。バズハップという宗派、スンニーよりもっと細かい分派、ナマーズを簡略にしている。神様は人が死んだことはわかるわけだから、墓を作ったり、そこにいたり、泣いたり、葬式をする必要もない。ムハマドも神ではなく、人である。でも才能はある。コーランとナマーズだけあればよい。改革開放のあとで、サウジアラビアの影響で、ホータンにも増えてきた、20~30%いる、政府に対して不満を持っている。私は同じイスラムだが、ムハマドを尊敬しないのはよくない。このような世の中だから、簡単にするのはよい、かれらはナマーズをしてもお金を取らない、商売人とインテリに多い、農民は少ない、たとえば葬式のあとナズル（供養）、ヤットナズル、ジギルマナズル、7日目、22日目、1年目と多くを集めて、食事を出す。このような無駄をしないで、貧しい人にあげなさいと、彼らはいう。

18歳で結婚、子ができない、性格が合わないから離婚、今は2番目の妻、41年目、5人の子供、末子の男はバス会社で運転手、ホータンに住んでいる。女の子だけだと財産はみな人のものになる。農業は自分で終わり、利益にならないから、6ムーのうち3ムーは村に返した。

結婚許可書なしでニカすれば罰金である。110日、3ヶ月たたないと離婚した後再婚できない、政府の法律ではすぐできる。でも習慣でウイグルではしない。同じ人と3回復婚できるだけ、違う人なら何回でもよい。法律では同じ人でも何回でもできるが、コーランでは違う。法律と習慣は違う。私は結婚はお金を使わず、質素なほうがよいと思うが、自由、自由と行って、派手になってきている。貧しい人の結婚を困難にしている。離婚後3ヶ月は習慣でお金をやる。共同財産は均等配分である。タラークは法律ではみとめられない。コーランでもなるべくタラークはしない。宗教と科学は対立しない、コーランにすべて書かれてある。女性はベールを巡礼から帰ってからする、ベールはたとえば大学生はしてはいけない、学内に入れなからである。人の服装まで政府は口を出しすぎる。葬式の仕方で、9歳以下の女の子、12歳以下の男の子が亡くなったら、アホンがするがアーヤット（コーランの章句）が違う。大人は女性も男性同じ、葬式に女は参加しない、家でアーヤットをする。男はマザールまでついていく、女性が亡くなっても同じ、女性

は参加できない。家を作るときの玄関の方向、好きなようにしてよい。メッカに向いて小便することはよくない、寝るとき足を向けない。なくなって1000年たつバクダットのマザールがある。自分の墓は好きな墓地を選んでよい。それは偉い人だから人気がある。

⑤、ラウラ郷（朝早く、祈りを終わったアホンと立ち話）アホン。ハーテップ（ジュマ・ナマーズをする）、イマーム（ジュマ以外などのときのお祈りだけ）、カーレム（アラビア語はわからない）などのイスラムの役職がある。ニカ、命名式などよばれる。死後、コーランの教えに従ったものは天国、そうでないのは地獄に行く。葬式するとき、なくなった人が天国にいけるようにナマーズする、ニカのときはコーランの3節を読み上げ、男はもらいました、女はあげましたという、死ぬまで仲良くするよう命じる、男の義務、女の義務を果たすようにいう。葬式、結婚式は昔と変わらない、すぐ離婚する人はいる、よくないが自由である。コーランにも書いてある、自分も3回目である。他の民族とは習慣、食事、言葉が違う、この郷には漢人は幹部が5、6人いるだけである。自分は中国語を話せない、別の民族の言葉を勉強するのは良いとコーランも言っている。

⑥、イマーム、46才。農業もしている、皆の前でナマーズをする。メッカに行きたいが団体でないといけないからむずかしくなった。18年間、イマームをしている。自分の父がアホンだったから。コーランはきれいな発音で読むだけで翻訳する必要はない、別の人とする。父が病気になって、皆が推薦したから、イマームになった。イマーム（毎日のナマーズ）、マゾン（ナマーズの時間知らせる、整列させる）、ハーテップアホン（金曜日のジュマ・ナマーズをする、コーランの意味は分かる）。10元から20元程度、葬式するときいただく。病院で亡くなっても必ず家に帰る。文化大革命の時、このモスクも壊された。道、乗り物、橋など、むかしにくらべるようになった。

⑦、コクマルムはムハマッド・アレクサレムの孫であるイマームアサンホジュマリップの聖地。12年間ここで祈りしている。ここに来ると病気が治る、多いときは毎日100人、神が山を作り、穴を作った。文化大革命で壊された。

葬式は体を洗い、白い布で巻き、アホンがこの人はどのような人だったか

聞く、借金はないか、許すか。墓地では息子が7回掘る。

## 6. 行政

①、40才、郷長になって9年、ブザク生まれ、79年から仕事、82年に党員になる。政治協商会会員。副県長と同じ地位の幹部。この郷の産物は小麦、木綿、とうもろこし、牧畜、果樹、養蚕。漢語の新聞は読む、聞くことはできる。中国ベスト10の郷長に選ばれて北京にいったこともある。

郷長の仕事として今問題なのは、民族団結を具体的な政策として実行すること。宗教に関してはうまくやれた。法律的には信教の自由がある。イスラムは習慣、ウルパアデット、ニカのように、としてあるべきで、モスクだけで生活し宗教にのめり込むようなイスラム教徒ではよくない。

家族計画と教育は難しい、農民は子どもをたくさんほしい、幹部は家族計画に従わなかったら首にできるが、農民はそうもいかない。農民は子どもを学校にやらない、畑仕事をさせる。出席率は、94%（小学）、81%（中学）である。

農民は子どもは3人まで、平均2人いる。罰金は年金収入の2倍で2000元。この役所で10人が家族計画担当。郷政府は38人（地元以外は15人）で構成。

郷長－副郷長－財務、家族計画、水、果樹、保安、教育など、教育委員会は先生の給料、財政など。党委員会に書記と副書記がいる。

副郷長は若い漢人、綿花の国際価格が下がったといていた。

ブザク郷は23000人、5000世帯、農業、牧畜、とうもろこし、木綿、果実、野菜。小麦16000ムー、木綿13000ムー、木綿が増えている。

②、グマ県ピアルマ郷、アナル（ザクロ）のふるさと。6300人、1300世帯。15000ムーで畑で550トンのザクロを収穫。1キロ5,6円で売れる、値段は上がっている。

6の村に分かれる、ジャイタシュ、ランガ、コンボイ、オータン、タウズウスタン、コタドン、それぞれ2～3のマハーラに分かれる、マハッラ長は

アクサカル、健康で経験のある長老、8人いるアジなどがなる。村長は選挙で選ぶ。

マハッラのきまり。1, 法律を守る。2, みんな仲良く。3, 助け合う一畑仕事、年寄り、お金を出す。4, 治安については10世帯ごとに責任者、互いに監視、火事に気をつける。5. 生産を早く、多く。そのほかマシュラップをする、歌と楽器と踊り。

テレビは50%、電話は30%が所有している。

農業が忙しいと学校が休み、県の許可が必要。1年間に2週間、中学には園芸労働技術がある。農民だからほとんど跡を継ぐ、高校や大学に行ったらしない、跡継ぎは親戚の子どもにする。大学に行った子どもの家庭は税金がやすくなる、1%（100人）が外に出る。

## 7. 医療

①、ブザク郷病院の看護婦。漢人、ホータン生まれ、ホータン衛生専門学校卒、99年11月赴任。ドクトルも大卒はいない。70年代、人民公社の時代建てられた。風邪の治療費20元もしくは鶏1羽。患者は多いとき1日15人。手術はしない。保健婦は郷で20人。病気予防や、ワクチン接種などを行っている。小児麻痺、破傷風、百日ぜき、甲状腺肥大（ヨードが少ない、中年以上）などの病気がある。そのほか、この地域は肺病、かぜ、が多い。

家族計画については病院はやっていない、郷政府に委員会がある。子の数がオーバーした人がいると、委員会と病院で証明書を出して処置する。1年間つとめた経験では2例あった。現場は初めて、ウイグル語はよくわからないことがある。5人の漢人がつとめている。私よりウイグル語はできる、すべて自然に覚えたものである。医療は実践が重要。3年つとめたら大学に行ける資格できる、5年は転勤できない。自分は医科大学に行きたい。北京、上海などに行きたい。でも英語の試験があるからホータンの専門学校出たくらいでは難しい。いままであったホータン中等師範学校はなくなり、幼稚園の先生は短期大学、小中学校は大学本科、高校は大学院、大学は博士課程を出る必要という国の法律ができた。ホータン市内の病院に勤めるには新疆医



科大学くらい必要、医者は余っている。1000元もらったら、3割を病院の運営費で出す、利益が上がったら、多くの配分があるが、病院は利益が出ていない。

②、郷の病院は患者が来ない、ベッド代、レントゲンとか高く取る、15くらいある個人の病院は薬だけ与え、それを飲むだけで安いから、皆、個人の医者にかかる。医者も郷の病院だと月収1000元だが、個人でやると3500元になる。医者も郷の病院を辞めて、個人で開業する。ここからは2人独立。私は新疆経済大学の卒業、病院の会計、月に10日しか仕事がない。別の工場の仕事もしている。

## 8、ウイグル文化の諸相

### 敬老院

①、マーマートニヤズ（今は病気で入院）が建てて、郷政府が運営している。

身よりのない、お金もない年寄りが入る。入って簡単な仕事をする。絨毯織り、畑仕事など。昔に比べたら入る人は増えている。91年設立、収容人員、40人。マーマートニヤズは農業をしていたが建築でもうけた、12万元の寄付で建てた。ここで働く人は6人（パート4人、郷政府からの人が2人）トサラ、バフチにも敬老院はある。ホータン県では2つの郷にないだけである。院長と、ほかに女性の医者がいる。家族計画を守って、子どもが少なくても、老後が心配ないようにしている。郷政府の援助のほかに、バザールで店を出し、年に5万元の売り上げがある、これには税金がかからない。去年から政府の金をもらう必要がなくなった。

部屋に書かれてあること：院長の責任は面倒をよく見る、法律を守る、尊敬する、時間通りに仕事をする、ここにいる人の健康に気を付ける。2元2角が1日の1人の食事代、予算、敬老院のスタッフの名前、当番の名前。

②、85才（敬老院に入っている人）。清の時代、盛世才の時代など、悪かった。8人と結婚した。当時は結婚の証明はいらない。1人のこどもは残っているが、自分の面倒を見ようとしなから子どもでもない。お金があつ

たらあちこち見物したい。心が下がって元気がでない、もうすぐ死ぬかもしれない。

## 和田地区新玉歌舞団

①、ケリア県トルグガズマハッラには楽器、踊りをする人が多い。サイルも多い。学校はイスラム学校で字を習っただけ、59年からホータンに住む。息子は運転手、教師、などで舞踊団の仕事は継がない。ラパム一掛け合いの踊りをする。社会の出来事も舞踊の題材になる。奥さんはシルク工場に勤めている。歌舞団は新疆全部を回って仕事をする。

アジェルバイジャンなど中央アジアの踊りと似ている。文化大革命のときも止めなかった。お客さんは電子楽器より伝統的な楽器を好む。楽器はカシュガルが有名、ホータンは安い。親から教わって弾けるようになる。ウイグル人は生まれつき音感がよい。特にホータンは良い。

②、(①の話をした人は定年退職で、いまケリアに帰っている、監督はしている。女性の団長に話を聞く。) 父母も舞踊団にいた。17歳のとき、北京の中南海で周恩来とあった。舞踊団に入るには、小学生ころ決める。私の子供も舞踊団にいる。親に教えてもらって、そのあと舞踊学校に入った。体がやわらかいから、ウイグルの文化を世界に発表したいからと舞踊団を志望した。ウイグルの舞踊の歴史はわからない。仏教の時代から始まったと聞いている。文化大革命のときは漢民族の歌だけだった。愛の歌(黄色い歌)は禁止で、仕事の歌だけである。10年間続いた。大阪、京都にも舞踊団は行ったことがある。女性は普通、楽器はやらない。いまの舞踊のテーマは自由である、環境、愛などがテーマになる。1年に100回公演、地区ごとに舞踊団がある。自分たちが1番と思う。建国50周年で新疆の代表として北京に行った。マッシュラップ、豊作、大学合格、結婚など喜ばしいとき、ウイグル人は自然と踊る。ウズベク、カザフなどとは音楽は似ているが、踊り方は少し違う。腰はふらない、男と女の踊りは違う。十二ムカムは、ウイグルの踊りの根本みたいなものである。現在はウイグルの伝統を掘り起こしている。仏教の時代の歴史も忘れてはいない。イスラムの影響は少しだけ、アラブの影響もすこしある。中国の少数民族としては、民族団結が重要である。

## 博物館

博物館は新しく建て直される。ローランなどミイラなどから血液を調べるといまのトルコ系と同じである。仏教を信じる民族とイスラムが1つになった。カラハン朝が国の力で改宗させた。その前のシャーマニズム、マニ教なども結婚式の火への信仰などに残っている。星、山、谷など自然へ信仰は、シャーマニズム。仏教はホータンへカシミールから伝わり、クチャへさらに伝わった。火、月へ祈る、太陽や川に向かって、小便しない。マザールの棒、旗などは、マニの影響である。旗がはためくと罪が消えていく。動物の皮をかぶり、病氣直しの儀礼（ピル）をすることも禁止されている。ウイグルの踊りに残っている。手品、占いもそうだが、イスラムは禁じている。

## ウイグル語の形成

現在、ウイグル人が話しているウイグル語はいつできたのか。1956年の会議で、ウイグル語をいろいろな方言に分類した、標準語、ホータン方言、ロブノール方言、（二次方言—カシュガル、トルファン、コムル、イリ、ハミ、アクセントが違うだけ。）標準語はウルムチで話されていた言葉を基に作られた。いろいろな地方から来ている。言語調査した。ロシア、中国政府からも、私の提案が認められた。方言を分け、文字を統一した。正書法をつくった。スラブの文字も考えた。漢字のピンインもだめ、15年後アラビア文字に戻った。ピンインがいいと思う。将来アルファベット戻るかもしれない。

## ウイグルの画家

コムルのマシュラップ。小麦の種まきを祝う。祖父母の時にはしていた。共和国になってもあった、文化大革命、人民公社の時代になくなった。服は唐の時代からコムルに入った。今はアトラス模様が多い。画集は1つだけ出版。コムルのレストランに大きい壁画がある。ウイグル人には芸術は欠かせない、苦しいときも。レストランで歌、踊りをよくする。絵の写真コピーは100元くらいして、値上がりしている。アラビア文字の書道もしている。

マシュラップの儀礼ではカラスは悪い、にわとりをとるから。

( マシュラップ :

メシュレップはアラビア語で「いっぱいやる場所」の意味である。思うに、現代のこの催しは古い時代の名残であろう。昔は「酒のテーブル」が運ばれて、いかめしい紳士たちが音楽とダンスに興じながら、したたかに酩酊したのである。「千一夜物語」の中の描写を参照されたい。 p. 164

フォン・ル・コック（羽鳥重雄訳）、東トルキスタン風物誌、白水社、1986.

クチャ、祭りの期間中、毎晩、それぞれ招待しあって、食物がだされ、ダンス、音楽、道化芝居が演じられる。 p. 140)

## 漢人の村

政策的に作られた村。私は44才、妻は34才で、子は女3人、家族計画は当初は免除された。漢人だけ13世帯、52人—75年には20世帯、90人いた。多くはふるさとへ帰った。四川、河南、上海など。面積や家などふるさとの方の条件がよくなったからである。

文化大革命後作られた。最初は生活が苦しく、ウルムチで仕事を探した。奥さんの姉がウルムチにいた。弟家族もこの村にいる。子どもは12キロ離れた赤旗小学校にオートバイで連れて行く。子どもはウイグル語を話せない。親も聞くだけしか理解できない。ウイグル人との付き合いはある。結婚式にも出たことがある。信仰はない。ふるさとには帰らない、今の生活は大体良い。

昔の階級区分では自分は貧農、富農もいたが文化大革命の時もここは穏やかだった。漢族の村がなぜ必要か、ウイグル人はクルミの木の栽培を知らない、その技術を教える。漢人の村は隣のブザク、トサラ郷にもある。奥さんが漢人の村は民族団結のために必要という。

畑は小麦を10ムー、郷政府に出して、1キロー1元3角で買い上げることになっている。野菜はバザールに持っていく。72年に蘭州から両親を迎え、兄もいる、ほかには血縁はいない。

私は蘭州からきた、漢族の生産大隊を作ると言うことできた、おじさんが

ホータンで軍隊にいて残っていた。ここは新疆軍区。ここに来たときは13才ぐらいだった。82年に結婚した。奥さんは河北省の武漢出身。ウルムチで知り合った。

## 女性の経営者

じゅうたん工場で女性の経営者に話を聞く。学校は休みだから子供が働いている。学校があるときは働かせることは禁止されている。110人働いている、農民だから農繁期は休む人が多いから人手が不足する。とくに綿・とうもろこしの収穫のときである。そのときは2ヶ月休業する。じゅうたんは順調に売れているが冬は観光客が少ないから売れ行きが落ちる。大きいじゅうたんはホテルなどが買う。デザインは自分で考える。大きいじゅうたんは5000元。できたては安い。女性ということで困難はあった、あちこちにいけない。

## 農業の現状

今は交通の便と道路が良くなった。昔は1ムー小麦200キロの収穫が、いまは400キロになった。家畜も10頭から20頭に増えた。生活はよくなったが、食べていけるだけ、現金がない。7人家族だと、4ムーの土地、(1人あたり半ムー5分)、穀物が足りなくてバザールから買ってくる。1800元の農作物がとれるが、肥料代をひくとあまり残らない、ほかの商売をしないと生活できない、